

長期的な視点で有望なNASDAQ100



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 再び史上最高値を窺う米国株

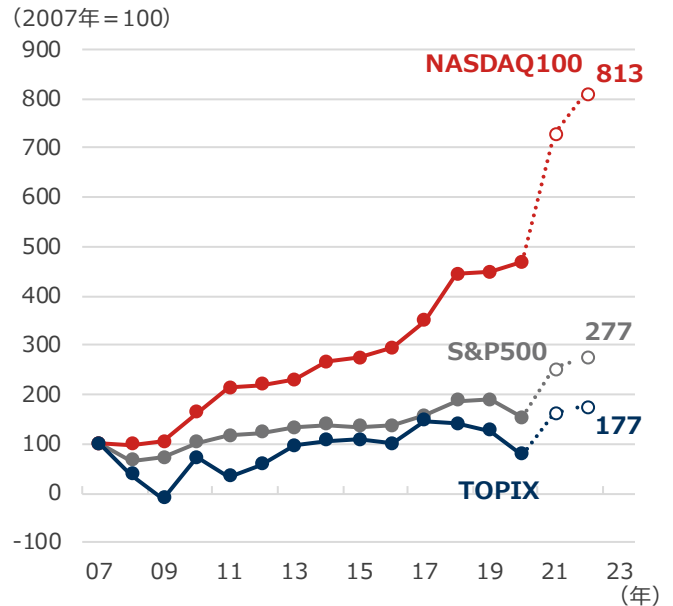
米国株が再び史上最高値に迫ってきました。インフレ懸念に加え、電力不足や中国恒大問題を抱える中国への懸念などもあり、9月は調整ムードが強まる場面もありましたが、良好な企業決算への期待が足元の米国株を押し上げているとみられます。もちろん、短期的には好決算確認後に材料出尽くしから売られる可能性もありますが、長期的な視点に立てば、米国株の下落局面は押し目買いスタンスで臨むことが重要と考えられます。

株価は長い目でみると利益に収れんすることはよく知られています。今後の日米株価指数別のEPS（一株当たり利益）は、いずれも拡大基調が継続する見通しです（右上図）。特に目を引くのはITやヘルスケア関連など高成長企業主要100社で構成するNASDAQ100です。2007年末を基点としたEPSはS&P500やTOPIX（東証株価指数）を凌駕しています。

ポイント② NASDAQ100の強みは？

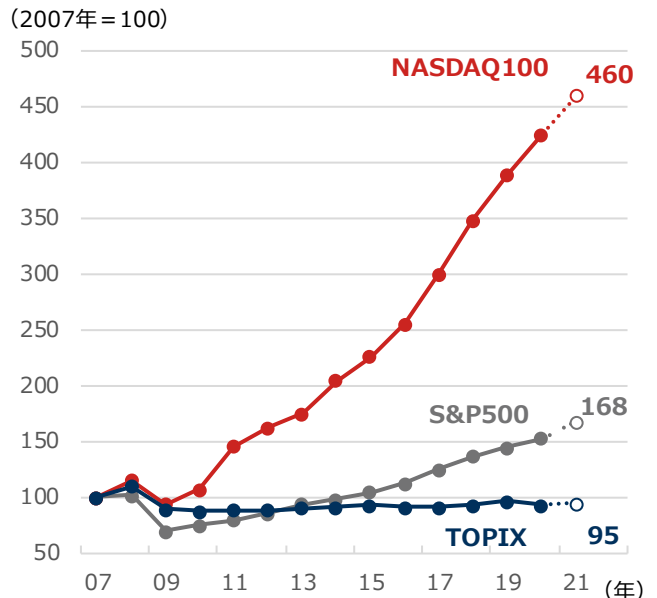
NASDAQ100の強みは何でしょうか。それは圧倒的な研究開発費です。近年テクノロジーの進化スピードが加速し、様々なイノベーションが生み出されているなか、NASDAQ100構成企業は未来の利益への種まきである「研究開発」に多額の費用を投入しています（右下図）。NASDAQ100はアップルやマイクロソフトをはじめ、潤沢なキャッシュフローを武器に今後も「高水準の研究開発→高い利益成長」という好循環が続くとみられます。今後、米金融政策の正常化局面を迎えるなかで、投資家は確固たる成長力を有する企業への選別投資を積極化させるとみられます。長期視点でNASDAQ100は魅力的な投資対象といえるのではないのでしょうか。

日米株価指数別のEPS



期間：2007年～2022年、年次
・2021年、2022年はBloomberg予想（10月19日時点）
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

日米株価指数別の研究開発費（一株あたり）



期間：2007年～2021年、年次
・2021年（10月19日時点）はBloomberg予想
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

個別銘柄の記載は、指数の構成銘柄の紹介を目的としており、特定銘柄の売買などの推奨、また価格などの上昇や下落を示唆するものではありません。

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。ご自身でご判断ください。